

中学校区におけるめざす子ども像							自分のよさを知り、失敗を恐れないで挑戦する子			堺市立金岡南中学校 校長 齊 田 浩		
令和6年度 重点目標 人間尊重の精神を基盤として 「学びの楽しさを知り、自分から学びに向かう生徒を育成する。」「自分自身や周りの人を大切にできる生徒を育成する。」 ことを目指してスケールメリットを生かしたチーム力による実践を展開する。												
確かな学びの現状 ・GIGAスクール構想推進校として構築した教職員の高いICT活用力に基づいて、高い水準の授業が展開されていることが学校教育アンケートの結果等からも伺える。 ・安定的な授業基盤が構築できていることを背景に、授業中に自分の考えをまとめたり、発表したりすることについては一定の成果が認められるものの、基礎学力向上が求められる生徒への一層の働きかけが必要な状況がある。 ・自主的な学習を習慣づけるためにGIGA端末を積極的に活用しており、その成果が認められる一方、自ら学びに向かうことや家庭学習の時間確保などについては、なお改善を進める必要がある。							豊かな心・健やかな体の現状 ・全般的に安定した状況を維持するなかで、体育大会の校内実施、フェニーチェにおける文化活動発表会などを通じて、知識・技術・技能だけでなく、生徒の自己肯定感を高める取組を展開し、成果が得られつつある。 ・クラブ活動は活発で大会等でも成果を上げているほか、休み時間にも自主的・意欲的に体を動かす生徒が多い一方、休み時間の運動や体育の授業に消極的・傍観的な生徒との二極化が進んでいる。 ・教室に入りづらい生徒のために開設した「なんちゅうルーム」に加え、通級指導、スクールカウンセラーの関与などの重層的な対応を展開して一定の成果が得られているものの、不登校等への取組を一層強化する必要がある。 ・いじめ重大事案の発生は認められないものの、いじめの根絶には至らず、継続した働きかけが必要な状況にある。					
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	授業改善	・落ち着いた教育環境に基づく秩序と活気のある教育活動を展開し「総合的な学力」を育成する ・ICT機器の活用等に基づく深い学びの場を構築し、信頼性・妥当性の高い評価と併せて授業の質的向上を図る	スケールメリットを生かし、複数教員のサポート等により教育環境を維持するとともに数学・英語の少人数習熟度別指導を効果的に展開する	「少人数授業やT・Tをもっといような教科で増やしてほしい」生徒が70%以上	学校教育アンケート等	年度末	○	△	△	・少人数は56%、タブレットは74%。いずれも定着しているものの生徒の満足度が向上しないため、授業改善を進めるなど、ICT機器等の有用感を高められるよう工夫を重ねたい。		
			●実践的な研修の充実に基づいた職員のスキルアップやICT機器の効果的な活用による授業方法の改善を進め、学力向上を図る	「タブレットを活用した授業は、楽しくわかりやすい」と答える生徒が85%以上	学校教育アンケート等	年度末	○	△	○	・少人数指導を希望する生徒がいる実態を踏まえて、可能な限り少人数指導に力を入れ、学校全体として学力向上を図ってもらいたい。		
	学力の向上	・家庭学習の習慣化に結び付く授業展開と指導を推進する ・自ら進んで学ぶ意欲を喚起し、学力低位層の減少を図る	全学年に学習の手引きを配布し、家庭で自主的に学習できるように習慣づける	「家では時間を決めて勉強している」生徒が70%以上	学校教育アンケート等	年度末	△	△	△	・時間を決めた学習は59%、発表は72%、提出物は92% 時間を決めた家庭学習については、塾通い等で在宅時間が短い影響も考えられるので、短時間の計画的学習について指導を重ね、学習習慣の定着を図りたい。		
			「学びのコンパス」「堺STEAMブック」導入を踏まえた研修に基づく授業展開により学力の向上を図り、自ら進んで学習できる基盤を構築する	「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」生徒が75%以上	学校教育アンケート等	年度末	△	○	○	・時間を決めた学習に塾での学習を含むかどうかでも数値が変わるはずであり、指標を見直すことも検討すべき。 ・将来を見据えて自ら進んで学習に取り組めるよう指導していく必要がある。 ・家庭学習の大切さや提出物についての高い意識を継続させてもらいたい。		
豊かな心・健やかな体	社会適応力の向上	・自分自身の長所や短所を理解し、他者を大切にしながら、多様化する社会の変化に適応できる力を養う ・学校いじめ防止対策基本法にもとづきいじめ対策の徹底を図る。 ・なんちゅうルーム、通級指導等を通じて安全・安心な学びの場を提供する	★キャリアパスポートを用いたキャリア教育、いのちの授業、障がい者理解教育など自分と他者との関係を見つめる活動の展開及びスクールカウンセラー、関係機関等の効果的な関与を推進する	「学校では将来の進路や職業・夢などについて考える機会がある」生徒が95%以上	学校教育アンケート等	年度末	△	○	○	・15歳の段階で将来の進路を決定するのは容易ではないので、学校がさまざまな体験活動を通して進路選択の機会を与えてくれることを期待する。 ・バラスポーツでの体験活動はたいへん有意義であり、地域連携も視野に入れて活動をしてもらいたい。		
			●「学校いじめ防止対策基本方針」に基づく校内体制を整備・維持し、外部機関等とも連携していじめの未然防止、早期発見・解決を徹底する	「授業で人の生き方や豊かな心のあり方、命の大切さについて学ぶ機会がある」生徒が97%以上	学校教育アンケート等	年度末	○	○	○	・進路は92%、命の大切さは94%。いじめ対応は90%。豊かな心を育む働きかけの生徒への好影響が伺えるので、関係団体等の協力を得ながら、一層の充実を図ることとしたい。いじめ対応の生徒評価が向上しているので、根絶に向けて一層の充実を図りたい。		
				「いじめや校内暴力などについて、先生によく対応してもらえる」生徒が90%以上	学校教育アンケート等	年度末	△	○	○	・登下校時に明るい挨拶をしてくれる生徒が多い。 ・生徒会あいさつ運動は自己肯定感を高める良い活動なので継続してもらいたい。		
	基盤的確立生活習慣	・生活習慣改善の重要性を理解させるとともに、困難に挑戦する姿勢を身につけさせる	挨拶する、時間を守るなどの日常生活に係る指導を統一的、重層的に展開して定着させる	「自分から友達や先生に挨拶をしている」生徒が93%以上	学校教育アンケート等	年度末	○	○	◎	・あいさつ92%、努力92%。 自己肯定感の醸成を目指した職員研修の効果が認められるので、今後も効果的な研修の実施に取り組むこととしたい。		
体力向上と自己肯定感を高める指導に基づき、困難にも自ら進んで挑める姿勢を身につけさせる				「自分が努力したことを、先生は認めてくれる」と感じる生徒が93%以上	学校教育アンケート等	年度末	△	○	○	・登下校時に明るい挨拶をしてくれる生徒が多い。 ・生徒会あいさつ運動は自己肯定感を高める良い活動なので継続してもらいたい。		
開かれた学校づくり	情報の発信	・ICTを活用した効率的な情報発信を展開する ・地域の理解と協力に支えられた学校運営基盤の構築	学校HP、tetoru、オンライン動画配信を活用して情報発信の効率化と進化を図るとともに、説明会等への保護者参加を容易にする	学校HPへのアクセスの前年比向上とtetoru等の効果的利用	ホームページアクセスと保護者の声	年度末	○	◎	◎	・地域が好き89%。学校の姿をリアルに伝えるなど情報発信を強化した結果、生徒間の一体感醸成や地域との相互理解が深まるなどの効果が得られているので、情報発信力強化に努めたい。		
			地域社会のニーズを踏まえた連携基盤構築を進め、生徒と地域の関係を強化する	「私たちが住んでいるこの地域が好きだ」という生徒が90%以上	学校教育アンケート等	年度末	○	○	○	・南中のホームページは高い頻度で更新されているので楽しみにしている。 ・個人懇談会、欠席連絡のオンライン化、保護者集金のオンライン配信などICTの活用が進んでいるので継続してもらいたい。		
校長より(年度末) 総じて落ち着いた学校環境を維持した上で、確かな学び、豊かな心・健やかな体をはぐむためにスケールメリットを生かした取組を展開できた。 キャリア教育や豊かな心の醸成等については、生徒のみならず外部協力者等からも良好な評価を得られているので、今後も多角的な取組みを継続することとしたい。2年目を迎えた校内体育大会については猛暑対策を踏まえ来年度は開催時期を前倒して生徒の安全・安心を確保することとした。また、フェニーチェを利用した文化活動発表は、生徒間に「ザ・金岡南」というワードが定着しつつあるなど、自己肯定感向上への効果が認められるので、プログラム等の見直しを進めて充実を図ることとしたい。年度当初におけるICT機器の整備状況が指標数値に影響した可能性があるため、機材整備の充実にも努めることとしたい。なお、家庭学習については、生徒が主体的に取り組むことができるよう、課題の出し方等についても検討を重ねたい。							学校関係者評価者から(年度末) バラスポーツ体験として車椅子バスケットボールを生徒が体験する授業のように、体験型の授業をこれからも取り入れてほしい。そうした学校での経験を重ねることによって、進路選択の機会が増えるだけでなく、他者との触れ合いの中で自分のよさがわかることもある。生徒の自己肯定感を育むため、学校全体で自己肯定感を高める研修などを設け、一人ひとりにあった指導や関わり合いをお願いしたい。教職員の負担軽減や働き方改革を進めながら教育の質を向上させるためには、学校単独で取り組むのではなく、大学や地域団体などと連携するなどして、学びをより一層深めてもらいたい。					